

平成 22 年 7 月

[配布先：全組合員]

市場情報

各地区の需要動向報告

北海道

例年であればこの時期は

6 月も残り僅か、今年も早半分が過ぎようとしています。梅雨も無く清々しい気候、例年であれば鉄骨、橋梁の加工でフル稼働の季節。今年は耐震関連こそ順調に推移しているが、新規見積もりは依然と少なく、各社とも工場稼働率は非常に低く、夏場以降の稼働率も見通しが立たない状況にある。

価格については、ゼネコン同士の過当競争による安値受注で指値は非常に厳しい。鋼板の大幅値上げにも係わらず、電炉厚板の値下げなどの影響で安値切板販売から脱却できず、与信問題に加え厳しい状況が続いている。

(玉造 (株)・西村卓也)

東 京

船 中 八 策

今、龍馬が面白くなってきました。ふと「万機公論に決すべし」の言葉が浮かび、その語源はどこにあるのだろうと思って調べていたら、龍馬の「船中八策」にあることが分かりました。

その中から抜粋すると、

- ①「上下の議会を置き、全て公論に基づいて政治を行うこと。
- ②公卿・大名の他、世の中の優れた人材の中から顧問を選ぶこと
- ③新しく国家の基本になる法律を定めること
- ④外国と新たに平等な条約を定めること

⑤金銀の比率や物の値段を外国と同じにする様に務めること等々とあります。時を経て
も不易は不易なのだと感じています。

当社は 10 月が決算期ですが、上期は御多分に漏れず過去最悪の状況でした。雇用助成
金も頂きましたし、その休みを利用して教育実習も行いました。更に考える時間がたっぷ
りあったので社員全員でこの時期に出来ることを自分達でやってみようと知恵を募ったと
ころ、沢山のアイデアが出てきました。その一端を紹介すると、その大前提は「減産対策
の取組を如何にするか」が総意でした。

具体的には

①「内製化を実施しよう」

レーザーの定盤張替作業を社内で行おう。

念願の安全通路に手摺を付けて新規に作ろう。そこに安全第一の看板をかけよう。

②「品質向上とコストダウンを同時に考えよう」

プラズマで電極寿命の延長化テストを行い操業条件の最適化をテストしよう。

レーザーでは未だ出来ていない共通切断テストを行おう。

①も②も低操業時に予め計画を立てておけば非常に有効な対策になります。

③「設備不具合対策の工事を実施しよう」

天井クレーンの点検台を設置しよう。

門型クレーンのモーターを更新すると同時にインバーター化の工事 を実施しよう。

電気不具合の対策工事を実施しよう。

鳩対策で天井部に鳩が嫌がる薬品を塗布しよう。

③の様に事前にテーマを温めておいて直ぐにやれる準備をしておくことが沢山あるし、
又大切であると思います。建材シヤーに於いては、生産変動は必ず起こりうる事態であり、
減産時にどう対応していくか極めて重要なことであり、色々な角度で取組が出来たことは
今後に繋がる成果であったと思います。

船中八策の④も⑤も当社にとって無縁ですが、やることは国内においてもまだまだ沢山
あると改めて感じています。「敢為邁往」の気概を持てば又明日からの希望が湧いてきます。

(山惣熔断・根本泰伸)

東 海

国内外の混乱により下期不安説が出始めた

東海地区 産建機系溶断業者の4月～6月の仕事量は、まだら模様ながらも底は脱しつつあると思っています。この背景には、ユーザーの製品在庫調整がほぼ目途がついてきた事と、中国、インド向けなどの新興国に纏まった引き合いが出て来た事によるものと思われる。一方では、ギリシャ危機に始まったヨーロッパ経済の不安は、再び世界経済が落ち込むのではないかと、予断を許しません。

我々シヤーも長らくの市況低迷で在庫調整に苦しんできたわけですから、この薄日が差した状況を大切に、一刻も早く攻勢をかけたいところです。

6月は上場企業の株主総会が続いています。予想以上に好決算の企業が多いのは驚いています。各社、国内需要が減少するなかで輸出と海外生産の持ち直しに加えて、我々の想像を超えるリストラ等の実行による経費削減の結果ではないかと、これを喜んで良いのか戸惑う昨今です。

日本政治の混迷が続くなか、いろいろな政策で日本は良くなると政治家が言っていることが空虚に感じます。今は、いろいろな情報に惑わされず、今日の前にきている仕事を地道にこなし、シヤー業界の将来を信じて、全員で協力して利益確保に邁進して行くしかないと思います。

(テクノタジマ・田島寛将)